



# ガンバッテいきます



岡田留里子さん

J/A阿蘇「四季彩いちのみや」  
と「アゼリア直売所」出荷  
出荷者



西田 豊和さん

J/Aかみましき 花栽培  
農家

岡田さんは南小国町の出身です。地元J/Aに就職後、20歳で結婚し、一の宮町へ。その後農業に携わる様になり、今年で32年目になります。

### ●トマトとキュウリが大好き

岡田さんでは米2.3ha、トマト22a、イチゴ8aを、岡田さん夫婦と長男さんで作っています。その他にも、こもこもピーマンという苦味の少ない新品種も少量作っています。トマトは4月から1か月かけて育苗、5月の連休頃に定植。6月終わりから12月はじめまで収穫します。寒くなるので、ビニールハウスを1棟直販用に加温し、そこでトマトの色づきを大切にします。イチゴは3月頃から1か月苗の準備

### ●直売所について

「直売所への出荷は、以前は義父母が担当していました。約10年前を請け合っているそうです。

### ●これからの抱負

岡田さんでは、民泊も行っており、他県の中学生や、熊農高農大の研修生を受け入れていきます。また小学生、保育園児のイチゴ狩り等の食育活動も行っています。「ジュニア野菜ソムリエの資格を取って、もっと充実した食育活動を行いたいです」とのこと。また、余裕ができたなら、加工所を作って加工品を直売所に色々出荷したい、と話してくれました。そして「J/A阿蘇園芸連絡協議会の役員として県の研修を受けているので、それを他の生産者にも伝えていきたい。また、売れることも大事だけど、心の豊かさを忘れないようにやっていきたいです」と話してくれました。

山都町矢部地区で、トルコキキョウを栽培している西田豊和さん(35歳)を取材しました。西田さんは、J/Aかみましき青壮年部長としても活躍されています。

### ●トルコキキョウとオペレーター

西田さんが熊農高を卒業し18歳で就農した当時は、菊やほうずきを栽培していたと言います。そして、比較的価格が安定していたトルコキキョウに栽培転換して、今年で12年目になります。今では、大小の無加温ハウス16棟で50a栽培し、6〜10月にかけて収穫し、J/Aや肥後花市場へ出荷しています。

花を取らない時期は、主に土づくりを精を出します。また、ホウレンソウや小松菜、ナスなどの無農薬野菜を栽培し、市内のマーケットへ直販しています。土づくりは「土に粉殻や緑肥などを働き込み、有機質の土壌を作っている」と言います。

西田さんは「万一、企業が農業に参入したらどうなるか、大変不安だ」と言い、「この中山間地に限らず、耕作条件が良い平野部に参入し、大量に農産物を生産し安い値段で販売すれば、消費者は安い物しか買わないだろう」と語り、自分が生産した農産物が売れなくなるのではないかと危惧しています。今後は、「栽培面積を10a程度増やし、ハウスを加温して12月まで収穫できるようにしたい」と抱負を語ります。



### ●好きな言葉

感謝「今日、生活できているのは、自分が作った農産物を買ってくれた消費者のおかげであるし、懸念にしている周りの人々のおかげである。」